

No. 021 日本語の構造

文法体系ーヴォイス 【基礎項目】

本セクションの目的

例えば、「(僕は) お姉ちゃんに叩かれた！」と言うことはできますが、「(僕の) ケーキはお姉ちゃんに食べられた！」と言うと随分おかしい日本語になってしまいます。正しくは「(僕は) お姉ちゃんにケーキを食べられた！」でしょう。「お姉ちゃんが僕を叩いた。」「お姉ちゃんが僕のケーキを食べた。」を同じように受身の文にしたのに、このような差が出てくるのはなぜでしょうか。

本セクションでは、前節に引き続き命題レベルでの重要な文法事項であるヴォイスについて取り上げます。

検定試験出題状況

本セクションの検定試験出題状況は以下の通りです。表記は以下に従います。

- ・試験Ⅲ問題 4 問 5 ⇒ 「Ⅲ0405」
- ・試験Ⅰ問題10問 1 と問 3 と問 5 ⇒ 「Ⅲ1001, 03, 05」
- ・試験Ⅲ問題 1 問 1 から問 3 まで ⇒ 「Ⅲ0101-03」
- ・試験Ⅲ問題13の問いすべて ⇒ 「Ⅲ13全」
- ・出題されなかった年 ⇒ 「-」

なお、本データは篠研独自の調査によるものであり、試験実施団体である日本国際教育支援協会が公開したものではありません。

実施年	19年	20年	21年	22年	23年
出題状況	-	I 01 (6) (12) (13) (16) (17) / Ⅲ0505	I 01 (12) (13)	-	I 01 (15) I 03D (16) - (18)
実施年	24年	25年	26年	27年	28年
出題状況	I 01 (9)	Ⅲ01全	I 01 (9) (14)	I 01 (8) I 03A (5)	Ⅲ01全

ヴォイス

ヴォイス (態)とは、「食べるー食べられる」の対立に代表されるように、動詞が変化することによって、文成分の格関係が変化する文法形式のことをいいます。

例として受身文の作り方で説明しましょう。下の(1a) (1b)を見てください。

(1a) 先生が 学生を 褒める。(能動文)

(1b) 学生が 先生に 褒められる。(受身文)

動詞「褒める」が「褒められる」という受身の形に変化すると、それに伴って(1a)で主語(主格)であった「先生(が)」が(1b)では補語(ここでは与格)に、目的語(目的格)であった「学生(を)」が主語(主格)に変化しています。**格**とは述語との意味的・統語的關係という意味で、日本語の場合、名詞に後接した**格助詞**(**後置詞**ともいいます。)で標示します。こうした文法形式のことを**ヴォイス (態)**というわけです。

日本語のヴォイスには、先の受身(態)の他に、能動態、使役(態)、可能(態)、使役受身(態)があります。下の例文を見て、それぞれペアになる文の動詞と格関係の変化を確認しましょう。

- (2a) 先生が太郎を褒める。(能動態)
- (2b) 太郎が先生に褒められる。(受身(態))
- (3a) 太郎がアメリカへ行く。(能動態)
- (3b) 父が太郎をアメリカへ行かせる。(使役(態))
- (3c) 太郎が(父に)アメリカへ行かせられる。(使役受身(態))
- (4a) 太郎がイナゴを食べる。(能動態)
- (4b) 太郎がイナゴが食べられる。(可能(態))

ここで1つ注意すべきことは、文中での動作主の表示です。(2b)では主語は「太郎」ですが「褒める」動作をしているのは「先生」です。同様に、(3b) (3c)の「行く」の動作主は「太郎」、(4b)の「食べる」の動作主は「太郎」です。

なお、格関係の変更を伴う表現としては、以上の他に「～てある」「～たい」、自発などもあります。これらはヴォイスではありませんが、指導上注意が必要です。

- (5a) 机の上にパソコンを置く。
- (5b) 机の上にパソコンが置いてある。
- (6a) 水を飲む。
- (6b) 水が飲みたい。
- (7a) 故郷を懐かしく思う。
- (7b) 故郷が懐かしく思われる。

ただし、尊敬表現（例：先生が教室に来られる。）は「～れる／られる」の形をとりますが、格関係は変わりません。

受身

受身の機能

そもそも、なぜ受身文を作る必要があるのでしょうか。庵(2001)は受身の機能を以下のようにまとめています。(庵(2001) pp. 104-107)

- (8) ・ 対応する能動文の動作主を不問に付したい場合
例：1998年、長野でオリンピックが開かれた。
- ・ 影響の受け手の方が影響の与え手より身近な場合
例：弟は知らない男に殴られた。
- ・ 従属節の主語を主節の主語と統一したい場合
例：先生に叱られて、太郎は泣いた。
- ・ 迷惑な気持ちを表したい場合
例：私は友だちにおもちゃを壊された。

以上の他、談話レベルにおいては、一連の文の主語を統一するために（これを**視点の統一**と言います。）受身文や使役文などを使うことがあります。次のページの（9）を見てください。主語を桃太郎に固定して（つまり視点を桃太郎に固定して）語られることで、文章に一貫性が生まれ、桃太郎を中心とした登場人物の関係がわかりやすく描かれています。また、その際に受身文や使役

文、さらにはやりもらい文が効果的に使われています。

- (9) おじいさん、おばあさんに育てられた桃太郎は、鬼を退治するため鬼が島へ行くことになりました。途中、イヌ、サル、キジを家来にしました。鬼が島では、キジに中の様子を調べさせ、サルに門の鍵を開けさせました。鬼にやられそうになったとき、イヌに助けられました。鬼たちに勝った桃太郎は、鬼が村から奪った宝物をすべて出させ、それを荷台に乗せて持って帰りました。村に帰った桃太郎は、村人たちにたいそう喜ばれましたとき。めでたし、めでたし。

受身文の作り方

受身文の作り方は、先ほど述べました。再掲しますので、再度確認してください。

(1 a) 先生が 学生を 褒める。(能動文)

(1 b) 学生が 先生に 褒められる。(受身文)

また、動詞の受身は、下の表のようなルールで作ります。なお、動詞の受身の活用は、もとの動詞の活用に関係なく一段動詞と同じ活用になります。

(10) 「書かれる」の活用例

書かれないー書かれますー書かれるー書かれればー書かれようー書かれて

受身の作り方

	例	受身
1 グループ (五段動詞)	書く kak-u	書かれる kak-areru
2 グループ (一段動詞)	食べる tabe-ru	食べられる tabe-rareru
3 グループ (不規則動詞)	する suru 来る kuru	される sareru 来られる korareru

なお、「紛れる」「待ち焦がれる」「憧れる」「呆れる」といった動詞は、形としては「～れる」という形をとっていますが受身ではありません。それは上記の「受身の作り方」に当てはめるとわかります。例えば「憧れる (akogareru)」が何かの動詞の受身であれば、上記の表に照らし合わせると、「areru」が抽出できるので、五段動詞のルールが当てはまると考えられます。

そこで、語幹と活用語尾の境目を「・」で示すと「akog・areru」となります。そこで「areru」を取って「u」とつけて辞書形にすると「あこぐ (akog・u) となってしまう、実際にはそのような動詞はありません。このことから「憧れる」は何かの動詞の受身ではなく「憧れる」という動詞の辞書形であることが分かるのです。

受身の種類

受身を大別すると、**直接受身**と**間接受身**があります。

直接受身とは「対応する能動文の補語の表す人や物を主語として表現する受身」（日本語記述文法研究会(2009)p. 216) のことです。直接受身は、下の(11a) (11b) のように、主体が対象に働きかける事態を、働きかけられた対象の視点から述べた文です。従って、このタイプは基本的に**他動詞文**を受身にしたものということができます。

(11a) 教師が学生を褒める。(他動詞文)

(11b) 学生が教師に褒められる。(直接受身)

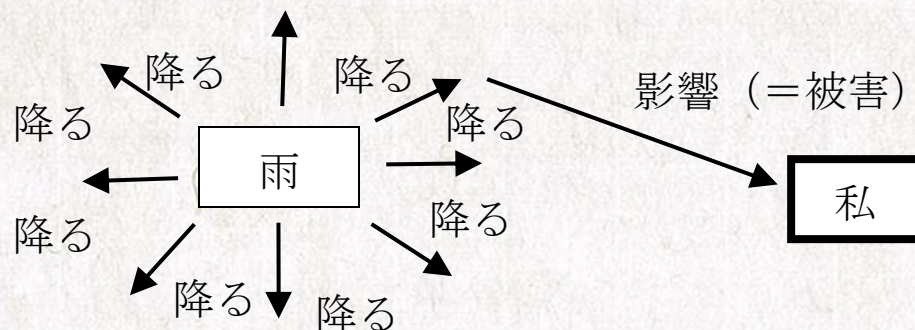


こうしたタイプの受身は多くの言語に見られますので、学習者もさほど難しいとは感じません。むしろ、働きかける対象を持たない自動詞文で受身ができることの方が例外的といえるでしょう。しかし、日本語では対象を持たない**自動詞文**で受身をつくることができますのです。それが、間接受身です。

間接受身とは、「対応する能動文の表す事態には直接的に関わっていない人物を主語とし、話し手がその人物と事態を主観的に関係づけ、事態と間接的な関係を持ったものとして表現する受身文」（同上。p. 217）を言います。下の(12a) (12b) を見てください。

(12a) 帰宅途中に雨が降った。（自動詞文）

(12b) 私が帰宅途中に雨に降られた。（間接受身）



このように、間接受身 (12b) では能動文 (12a) になかった「私」が主格と

して現れ、それとの関連で事態との間接的な関係を述べています。従って、能動文と間接受身では事態のとらえ方がやや異なります。通常、間接受身では、(12b)のように迷惑を被ったという内容を伴うことから、**迷惑の受身**、**被害受身**とも呼ばれます。

また、自動詞文だけでなく他動詞文も間接受身にできることがあります。(13a) (13b) を見てください。

(13a) 誰かが図書館の本を借りた。(他動詞文)

(13b) 私は誰かに図書館の本を借りられた。(間接受身)

この場合も、「誰か」の「図書館の本を借りた」という行為が、間接的に「私」に及んだことを述べた受身ですので、間接受身ということができます。

特殊な受身

直接受身の特殊なタイプとして**非情の受身**、間接受身の特殊なタイプとして**持ち主の受身**があります。

非情の受身とは、直接受身のうち主語に無生物をとる受身のことを言います。元来、日本語の受身は主語に**有生物**を取るのが原則です。なぜなら、有生物でなければ、そもそも何かを受けた(あるいは被った)と認識することができない、つまり受身文を作ろうと思うことができないからです。

ところが、特に動作主を取り上げる必要がない場合、例外的に無生物を主語にすることができます。このようにしてできた受身文を非情の受身というわけです。(14) (15) が非情の受身の例です。

(14) 先週、カラオケ大会が開かれた。

(15) この寺は、およそ100年前に建てられた。

持ち主の受身

動作の対象が受け手の体の一部やその所有物である受身文を**持ち主の受身**と言います。

間接受身文でありながら対応する能動文があること、また、主語に無生物を取らないという原則から、受身文の作り方が通常と異なる点に例外的な特徴があります。次の例を見てください。各文のaが能動文、bが一般的なルールで作った誤った受身文、cが正しい持ち主の受身文です。

(16a) 誰かが私の足を踏んだ。(能動文)

(16b) *私の足が(誰かに)踏まれた。(*は非文を表す。)

(16c) 私は(誰かに)足を踏まれた。(持ち主の受身：体の一部)

(17a) 誰かが私の財布を盗んだ。(能動文)

(17b) *私の財布が(誰かに)盗まれた。

(17c) 私は（誰かに）財布を盗まれた。（持ち主の受身：所有物）

学習者の中には（あるいは日本人の中にも）、(16b) (17b) のような誤用を犯すケースが多く見られます。それだけに持ち主の受身文特有の誘発しやすい誤用といえます。従って、授業でしっかり指導する必要があります。

ニヨッテ受身文

以上の他、直接受身文の1つに「ニヨッテ受身文」と呼ばれるものがあります。

通常、受身文の動作主は二格で表示されますが、動作主が生産者・製作者・破壊者の場合、「に」ではなく「によって」で表されます。下の例を見てください。

(18a) 清少納言が『枕草子』を書いた。

(18b) *『枕草子』は清少納言に書かれた。

(18c) 『枕草子』は清少納言によって書かれた。

なお、「によって」には以上のような直接受身の動作主としての用法の他に、「手段・原因」（例：AIによって、多くの仕事が自動化されるという。）、「よりどころ」（例：これまでの慣習によって祭事が行われる。）、「場合」

(例：場合によって、罪に問われないこともある。) といった用法もありますので、注意が必要です。

使役

使役の意味

使役の意味は、強制や許容をはじめ多岐にわたります。グループ・ジャマシイ(1998)は、使役の意味・機能として以下の8項目を挙げています。(グループ・ジャマシイ(1998)p. 129 下線筆者)

- (19) 犯人は銀行員に現金を用意させた。(強制)
- (20) 社長は秘書にタイプを打たせた。(指示)
- (21) 疲れているようだったので、そのまま眠らせておいた。(放任)
- (22) 社長は給料を前借りさせてくれた。(許可)
- (23) 風呂の水をあふれさせるな。(放置)
- (24) 子供にミルクを飲ませる時間です。(介護)
- (25) 子どもを事故で死なせてしまった。(自責)
- (26) フロンガスが地球を温暖化させている。(原因)

以上に加え、使役には以下のような意味・用法もあります。

- (27) 彼はいつもおもしろい事を言ってみんなを笑わせる。(誘発)

このように見てみると、使役は (19) (20) のように強制的に何かをさせるという意味合いが強い用法だけでなく、(21) ~ (27) のようにそうした意味合いが薄いものまで幅広い用法があることが分かります。

使役文の作り方

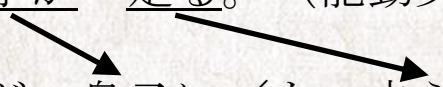
使役文は、もとの能動文が**自動詞文**か**他動詞文**かによって作り方が異なります。

自動詞文の場合

能動文が自動詞文の場合、以下のように作ります。

(28) 息子が 走る。(能動文)

(29) 父が 息子に／を 走らせる。(使役文)



動作主を二格で表す場合(=**二使役文**)とヲ格で表す場合(=**ヲ使役文**)がありますが、動作主が意志を持ったものの場合、二格もヲ格も取れますが、動作主が意志を持たない物の場合はヲ格しかとりません。

(30) 毎日水をやって花 (を *に) 咲かせた。

他動詞文の場合

能動文が他動詞文の場合、以下のように作ります。

(31) 娘が ご飯を 食べる。(能動文)

(32) 母が 娘に ご飯を 食べさせる。(使役文)

また、動詞の使役は、下の表のようなルールで作ります。1グループの動詞（五段動詞）と2グループの動詞（一段動詞）には長形と短形があります。

使役の作り方

	例	使役
1グループ (五段動詞)	書く kak-u	(長形) 書かせる kak-aseru (短形) 書かす kak-asu
2グループ (一段動詞)	食べる tabe-ru	(長形) 食べさせる tabe-saseru (短形) 食べさす tabe-sasu
3グループ (不規則動詞)	する suru 来る kuru	させる saseru 来させる kosaseru

なお、例えば「やらさせる」のように、本来の「やらせる」に余分に「さ」をつけた使役を見ることがあります。これらは「**さつき言葉（さ入れ言葉）**」といわれ、正用とみなされていませので注意が必要です。

使役か他動詞か

動詞によっては、それがあある動詞の使役形なのか、あるいは他動詞なのか一見迷うことがあります。例えば、「見せる」は動詞「見る」の使役でしょうか、

それとも他動詞でしょうか。

それを確認するためには、下のよう先動詞の使役の作り方のルールを当てはめてみればわかります。

食べさせる	→	食べる
tabe-saseru	「saseru」をとって「ru」をつける	tabe-ru
見せる	→	×
miseru	「(s)aseru / (s)asu」が抽出できない	

以上のことから「見せる」は使役ではなく、一個の他動詞であることがわかります。同様の紛らわしい動詞に「着せる」「寝かせる」「起こす」等があり、対応する使役「着させる」「寝させる」「起きさせる」との意味・用法もそれぞれ類似点と相違点がありますので注意が必要です。

(33) 親が子どもに服を（ 着させる 着せる ）。

(34) 子どもが人形に服を（ *着させる 着せる ）。

このように、「（服を）着る」主体が有情物の場合は使役が使えますが、無情物の場合は原則使役は使えず、他動詞で表現します。

使役受身

使役受身とは

使役受身とは、文字通り使役と受身が合わさってできたもので、意志動詞によって作られた使役受身の場合、常に強制すなわち「無理やり何かをさせられた」(35) (36) という意味を、感情や思考を表わす動詞によって作られた使役の場合、感情や思考の生起(37) (38) を表します。

(35) 私は子どもの頃、母にお使いに行かせられた。

(36) 入社したばかりの頃、先輩によくトイレを掃除させられた。

(37) 今回の交通事故で、安全確保の重要性を改めて考えさせられた。

(38) 友情をテーマにしたこの小説に、深く感動させられた。

強制の場合、強制する人は二格で表され、感情や思考の生起の場合、その原因は二格や動詞のテ形などで表されます。

また、使役受身では迷惑や被害といった感情を伴いますが、逆に恩恵や感謝といった感情を伴う場合、「～(さ)せてもらう」「～(さ)せてくれる」といった表現を使います。

(39) 新車試乗会で、少しだけ新車を運転させてもらった。

使役受身の作り方

動詞の使役受身は、下の表のようなルールで作ります。1グループの動詞のみ長形と短形があります。

使役受身の作り方

	例	使役
1グループ (五段動詞)	書く kak-u	(長形) 書かせられる kak-aserareru (短形) 書かされる kak-asareru
2グループ (一段動詞)	食べる tabe-ru	食べさせられる tabe-saserareru
3グループ (不規則動詞)	する suru 来る Kuru	させられる saserareru 来させられる kosaserareru

可能

可能の意味

可能の意味は、能動主体の能力に可能・不可能の理由がある**能力可能** (40) と、能動主体の能力以外に可能・不可能の理由がある**状況可能** (41) に、大きく分かります (日本語記述文法研究会 (2009) p. 280)。特に状況可能は、(41) のように「許可・不許可」の意味を表わすことがあります。

(40) 僕はインド料理なんて作れない。(同上)

(41) [公園の立て札]芝生には入れません。(同上)

さらに、可能はその動作の実現に言及するかしらないかということによって、大きく、**潜在可能**と**実現可能**に分かれます (同上。p. 281)。潜在可能とは、その動作を実際に行うかどうかは別にして、可能性だけを表すものであり、実現可能は動作の実現も含めて表わすものです (同上)。(42) が潜在可能の例、(43) が実現可能の例です。

(42) そのときその手紙が書けたのに書かなかった。(同上)

(43) 昨日ようやくその手紙が書けた。(同上)

また、可能には主体の性質を表す用法もあります。

(44) 彼は、一見強面だが話すと意外に話せるやつだ。

(45) ビジネスに成功するのは、できる人よりできた人。

可能文の作り方

可能文は、能動文 (46a) に対し、以下のように「～が、～を」 (46b)、「～が、～が」 (46c)、「～に、～が」 (46d) と 3 種類の文型をとります。「～に、～を」 (46e) という文型は取らないので注意が必要です。

(46a) 彼がピアノを弾く。

(46b) 彼がピアノを弾けるのは、みな知っている。

(46c) 彼がピアノが弾けるのは、みな知っている。

(46d) 彼にピアノが弾けるのは、みな知っている。

(46e) *彼にピアノを弾けるのは、みな知っている。

(*は非文を表わす。)

ただし、「動作動詞+できる」のときは上の 3 種類の文型をとることができるものの、「できる」の前に対象などがくる場合「が」で表されるのが普通であり、「を」で表されるのはまれです (日本語記述文法研究会 (2009) p. 279)。

(47) 鈴木君は野球 {が／?を} できない。(同上)

(48) 佐藤さんは英語を話すこと {が／*を} できない。(同上)

また、動詞の可能は、下の表のようなルールで作ります。

可能の作り方

	例	可能
1 グループ (五段動詞)	書く kak-u	書ける kak-eru
2 グループ (一段動詞)	食べる tabe-ru	食べられる tabe-rareru
3 グループ (不規則動詞)	する suru 来る kuru	できる dekiru 来られる korareru

なお、例えば「見れる」「食べれる」のように、本来の正用である「見られる」「食べられる」から「ら」を抜いた可能形を見ることがあります。これらは**ら抜き言葉**といわれ、正用とみなされていません。ただし、ら抜き言葉を一段動詞の可能動詞化（「見られる」が「見れる」のように「(ら)れる」が動詞と一体化し、可能を表す1つの動詞のようになること）と捉える考え方もあ

ります。

また、逆に「読めれる」「行けれる」のように、本来の正用である「読める」「行ける」に「れ」を足した可能形を見ることがあります。これらは**れ足す言葉**といわれ、同様に正用とは見なされませんので注意が必要です。

さらに、「見える」「聞こえる」「わかる」は「自然とそうなる」という自発的な意味を持つ動詞です。可能動詞ではないので注意が必要です。

加えて、学習者の母語によっては可能表現が日本語のそれと使用範囲が異なる場合があります、それが誤用を引き起こすこともありますので、指導の際には注意が必要です。

(49) もう仕事が終わったから、帰れるよ。(→帰っていいよ)

以上の他、可能には動作対象の性質を表す用法もあります。例えば、下の(50)では、「扱えます」は「女性」の能力を述べているのではなく、「この高枝切りばさみ」の性質を述べています。

(50) この高枝切りばさみはとても軽く、女性でも簡単に扱えます。

なお、「れる／られる」は可能だけでなく、受身や尊敬と作り方が似ているので指導の際には注意が必要です。「不安に駆られる」の「駆られる」は「駆

る」の受身であって可能動詞ではないので注意が必要です。

以上、ヴォイスについて見てきました。

ヴォイス表現を使いこなせるかどうかは、その学習者が中級レベルに到達したかどうかを測る一つの試金石としてとらえられることが多いようです。なぜなら、ヴォイス表現を使いこなすためには、単に事実を述べるだけではなく、談話の視点を統一し、その話題の中心人物を軸に表現する、高度な文法力や言語運用能力、談話構成力が求められるからです。

中級の肝はヴォイス！！ しっかり指導してあげてくださいね。

参考文献

- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
- 北原保雄編(1989)『講座日本語と日本語教育 第4巻 日本語の文法・文体(上)』明治書院
- 金田一春彦(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 名柄迪監修(1989)『外国人のための日本語例文・問題シリーズ15 テンス・アスペクト・ムード』荒竹出版
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』くろしお出版
- 松岡弘監修(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク